

## 「今後とも成長は続く」清水日銀支店長 名古屋ともご縁 懇親会も盛り上がる

中部財界フォーラム社主催の異業種交流会「東海財界倶楽部」の第30回例会が4月18日、名古屋市東区のホテルオークラレストランで開かれた。日本銀行名古屋支店長の清水季子さんが「最近の金融経済情勢と今後」というタイトルで約40分間、講演した。

清水さんは1987年に東京大学を卒業後、日本銀行に入行。国際局審議役（アジア関係総括）、欧州統括役などを歴任し、昨年4月から現職を務めている。

講演では、欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁の発言を引用して、「2019年の東海経済における increasing caution（より一層の用心）とは何か」と問題提起し、最新の経済情勢を多岐にわたり解説した。東海経済については、日銀短観の業況判断DIや売上高・収益、設備投資などのデータなどを示し、「今後とも成長は続く」とした。

また、東海地域を支える中小企業を取り巻く環境の変化について解説。そのうち、事業承継については、「経営者の高齢化が進む中、事業内容をしっかりと把握し、経営できる資質を持つ人材の確保が重要だ」と指摘し、大企業、金融機関、行政機関による支援体制の必要性を強調した。外国人労働者については、東海地域では製造業を中心に多くの外国人労働者が働いており、愛知県による多文化共生推進プラン2022など行政による取組みも進むなど、互いに支え合う共生関係づくりが進んでいると評価した。さらに、女性の活躍について、女性の労働参加は拡大しているものの、日本の女性役員比率は欧米諸国と比べて低く、女性が20年、30年と働き続けて、経営に関わるような働き方ができるようになっていくことが重要と指摘した。

今後の東海経済の発展に欠かせないイノベー



講演を行う日本銀行名古屋支店清水季子支店長



乾杯の発声をする駐名古屋大韓民国総領事館・姜賢一氏の現状についても解説。当地経済団体、大学による取り組みを紹介するとともに、愛知県のスタートアップへの強みを示し、「種となるアイデアを持つ企業が、最先端技術をもつモノづくり企業と連携すれば、より地に足の着いた連携が進むのではないかと期待した。

講演の冒頭、清水さんのご両親が名古屋出身という縁で名古屋には親近感を感じている、というエピソードを披露したこともあり、講演後の懇親会では、女性の出席者にも囲まれ、「名古屋」の話題はもちろん、女性の活躍論議でも大いに盛り上がった。

東海財界倶楽部とは 愛知、岐阜、三重3県に拠点を有するトップ経営者を中心とした異業種交流会で、経営者同士の交流や情報交換を目的としている。会員は随時募集。2か月に1回、各界から招いた講師による講演会を実施している。問い合わせは、東海財界倶楽部事務局＝052（979）2003